

令和4年度 学校評価報告書

島根県立出雲養護学校

①校訓	あかるい子 なかのよい子 たくましい子	重点テーマ 域力とつながる個性を生かして地
②めざす児童生徒像 (グラデュエーションポリシー)	地域で生きる人になる	
③高等部 求める生徒像 (アドミッション・ポリシー)	自分の可能性を切り開くことに意欲が持てる生徒	
④学びの方向性 (カリキュラム・ポリシー)	○地域で生きる力の育成 ・様々な学習や生活の中で活用できる知識の獲得 ・獲得した知識を活用して課題を解決する力 ・自己理解を深め、困難に負けず主体的に取り組む力 ○12年間を見通したキャリア教育の推進	
⑤学校の役割 (スクールミッション)	出雲圏域の特別支援教育の拠点としての役割 ・障がいのある子どものキャリア教育の推進 ・センター的機能(教育相談機能)の充実	

評価 A:達成できている B:ほぼ達成できている C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

学部 分掌等	評価計画				目標値に対する 実績	自己評価		学校関係者(いずよう魅力化協議会委員)評価	
	重点目標	具体的方策	評価指標	目標値		評価	課題及び次年度への改善策等	評価	主な意見等
小学部	興味や関心を引き出し、児童が自ら考えて活動できる授業づくりの工夫を行う。	児童の好きなことや得意なことを活かした学習内容を設定したり、地域や校内の資源(人や環境、物等)、ICTを活用した授業づくりの工夫を行ったりする。	教職員(学部内)アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合。 設問『具体的方策に挙げたことを意識した授業づくりの工夫ができたか』	80%以上	100%	A	・児童の興味関心のある内容を取り入れた授業づくりの工夫をすることができた。地域や校内の人材や資源を活用した授業づくりについて、今後計画的に実施していきたい。 ・ICT活用について、児童の実態に合わせた指導やルールを決めた活用を推進していきたい。	A	・1人1人の創造力が発揮された作品が掲示され、環境が工夫されていました。 ・獅子舞・音遊びなど地域との交流について今後も可能な限り継続して協力していきたい。 ・地域とのかかわりの中でたくさんの経験ができる授業は、児童にとって良い刺激、また興味や関心につながっていると感じました。児童みんなが楽しいと思える授業づくりを考えておられますね。
中学部	生徒・教員の個性を活かしたり、地域の力を取り入れたりして、魅力ある授業づくりを推進する。	検討会を計画的に設け、「生徒にとって地域の力等を取り入れた魅力ある授業か?」「地域(相手)にとっての利点は?」「生徒が考えたり、選択決定したりする場面があるか?」等に着目して、協議や振り返りを行う。	教職員(学部内)アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合。 設問『具体的な方策にあげた3点等を意識し、魅力ある授業づくりが推進できたか』	80%以上	100%	A	・具体的方策の3点を意識して、魅力ある授業づくりが推進できた。今後は、さらに地域の力等を取り入れた授業を増やしたり、より計画的に進めたりしていく。 ・各学級や学年、グループで実践している様子の写真等を交えながら教員間での情報共有を活発に行い、今後のよりよい授業づくりに活かしていく。	A	・小⇒中⇒高とステップを丁寧に計画され、取り組まれていました。 ・生徒が自ら考えたり、伝えたりする力がつく授業だと感じます。高等部に向けて集団での活動実践も良いと思います。
高等部	生徒が自分の個性を生かし、可能性を切り開くことに意欲をもちながら、集団や地域の中でよりよいつながりをもつことができ、授業づくりを推進する。	学年会や学習グループ会で授業づくりについて話し合う時間を設定することで、地域の人材や資源について情報を発信し合ったり、学部研究と関連づけて授業づくりに関して相談しやすい体制をつくったりする。	地域の人材や資源を活用した授業づくりを、学級・学年・学習グループ・作業班等の単位で、何単元実施したか。年3回以上実施することを目標とした実施率(販売活動を除く)。	80%以上	80%	A	・授業をつくっていくための話し合いの時間をとることが難しい→学年会を減らすなどで時間を捻出する。 ・地域と連携する業務負担(資料の作成等)を軽減するシステムを考える(地域連携支援部と連携)。 ・地域連携推進事業では、今年度職業コースの学級をモデルに実践した。来年度は、それ以外の実態の学級をモデルに、さまざまな実態の生徒の地域との連携の在り方について深めていく。	A	・就労に向けて確実に力をつけ、自信につながっている姿を見て感じました。 ・業務の削減、手続きの簡素化を本気で考えていくことが必要だと感じます。 ・地域との連携による授業づくりは、情報収集から関係づくり、授業のコーディネート、フィードバックから次の展開へのアイデアなど、先生方のご尽力がなければ進まなかったことと思います。これまでの生徒さんたちの学びに、「多文化」という切り口が加わることによって新たな視野が開かれ、さらには実際に「多文化」お客さんに接するという現場体験を通して、学びがより深まっていったことと思います。私も学びを共にする機会をいただいたことで、そのプロセスを目の当たりにさせていただきました。 ・地域連携推進部を生かした授業がたくさん見られ、地域とのつながりが幅広く実施され達成感が得られたと思います。総合コースの生徒もたくさんの地域とのつながりでもっと自信がつく生徒になるといいと思います。
訪肢 団体 グループ ・自由 ・	肢体不自由教育における専門性の向上を図り、多角的な視点に立つて授業について考えることができる。	専門性向上のため、進路情報、ICT、教材研究、見え方、病理等についてグループ全体で学べる場を設定する。	担当者を決め毎月学習会を設定する。	年10回以上	100%	A	・年度内に学習会のニーズを確認し、次年度の学習計画を考える。	A	・児童・生徒が安全にかつ有意義な学びができるように、いろいろな対応をしながら授業をされていました。
大田 分 教室	地域の人やものを活かした授業づくりを行うことで、「確かな考える力」を育てる。	地域の人やものを活かした授業を各学部や学級で年間1～2回公開し、地域の活用により「確かな考える力」に繋がる姿を引き出せたか検証できるような研究協議を行う。	教職員(大田分教室)アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合。 設問『研究により「確かな考える力」を検証し教職員で共通理解することができたか』	80%以上	100%	A	・研究協議から導き出した「確かな考える力」を、具体的な姿(「学んだこと」を掲げその後活かす姿)として次年度に引き継ぐ。 ・作成した地域活用マップを来年度の年間指導計画に反映させる。	A	・今まで見えていなかった地域を活用した授業づくりに期待しております。
遼 摩 分 教室	地域や身近な人との関わりの中で、生徒が自分の良さ(個性)に気づき、その良さを発揮することができる力を育成する。	地域との学習で自分のよさを意識して活動し、その中で他者から評価をもらうなど(その場での評価やアンケート評価)、良いところを認め、それを様々な活動の中で生かす場を設ける。	遼摩分教室の生徒のアンケート回答「できた」「概ねできた」の割合。 設問『自分の良い所を生かした活動ができたか』	80%以上	82%	A	・活動ごとに他者からの良かったメモを書いてもらい掲示をしたが、自分へのメモをわかりやすいような掲示にしておく。 ・生徒同士の良いところはメモを例示しておくなど書きやすい書式にする。 ・生徒が答えやすいように、どのような学習場面があったのかを例示しておく。	A	・掲示物を見るだけで、地域とどんな取り組みやかかわりをされておられるのかよくわかります。遼摩高校の生徒や先生方とのかかわりや授業の成果や課題はあるのか知りたいです。
雲 南 分 教室	地域や学校での体験的な活動を通して、主体的に行動したり、自分の課題を見つけ、改善したりしようとする生徒の育成	販売学習やボランティア活動等、地域社会とのつながりを意識した活動を実施する。	地域での販売会や地域の資源や人材を活用した学習の実施。	年4回以上	100%	A	・課題に向き合いにくい生徒もおり、改善しようという意識を高めることに課題が残った。 ・生徒がより主体的に活動できるように、話し合い活動などをしながら生徒達で授業を組み立てていくような仕組みを検討する。 ・振り返りの仕方を工夫したり言葉かけ等の支援について検討したりしながら、課題へ向き合おうとする意欲を高めていくようにする。	A	・3C夢clubやスペシャルオリンピックスなど、雲南の地域での活動と今後どのように連携を取っていくのか楽しみにしています。 ・生徒の意欲を高めたり、向き合うようにすることなど、生徒が社会に向かっていくための先生方の取り組み意識が伝わります。

みらい分教室	身近な人や地域との関わりをとおして、自分の良さを感じたり、自分の考えを広げたりできる力の育成。	各学部の育てたい力の再検討を行い、学部(又は学級)で地域(場所、人)と関わる授業を2回以上実施し、自己肯定感を高めていくための評価シートの改善と活用に取り組む。	教職員(みらい分教室)アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合。設問「自己肯定感を高めていくために、評価シートの改善・活用ができたか」	80%以上	85%	A	・教員全員が自己評価「トライ」を各教科(中学部)、各学級(小学部)で実施するために、様式の検討や育てたい力の確認を行い、それを加味した目標の選択肢を用意するなど児童生徒が意欲的に取り組めるようにする。 ・各学部でカリキュラムマネジメントを行いながら地域と関わる授業を実施し、自己肯定感を高められるように内容を充実させていきたい。	A	・普遊び交流事業を継続して実施していますが、コミセンの専門部員も、楽しんでもらえるように工夫や事前の練習をしています。
総務部	保護者や地域と連携しながら、安心・安全な学校づくりに努める。	避難訓練を通して、危機管理マニュアル(防災関係)をより現状に応じたものに修正する。	教職員アンケートの回答の「良い」「概ね良い」の割合。「避難訓練を通して、危機管理マニュアルをより現状に応じたものに修正できたか」	80%以上	85%	A	「火災発生時の対応」と「地震発生時の対応」については、避難訓練を通して変更・修正を行った。「風水害発生時の対応」は、大雪や大雨洪水等の場合の対応を加えて名称を「気象災害時の対応」に変更して内容を修正した。新たに「弾道ミサイル発射に係る対応」、「原子力災害発生時の対応」のマニュアルを作成した。今後も随時、修正していく必要がある。	A	・今年度、緊急で一斉下校(小か中)になった時がありました。迎えが集中したことで近辺の道路にまで渋滞が続き、なかなか校内に入れない事態が起きていました。そのような時の対策を講じてほしいと思います。 ・地域との連携を考えるなら、避難場所となっている学校周辺の地域と一緒に避難訓練することも考えてはどうかと思います。難しいとは思いますが。
教務部	児童生徒の個性を生かし、地域とのつながりを意識した学習への取組の充実を図る。	児童生徒の個性を生かし、地域と結びつけた学習内容の設定を意識して計画的に取り組めるよう年間指導計画新様式への記入の方法を示し、前後期で振り返る機会の設定を行う。	教職員アンケートの回答の「良い」「概ね良い」の割合。設問「児童生徒の個性を生かし、地域とのつながりを意識した学習活動を実施することができたか」	80%以上	93%	A	各学部、学年で児童生徒の個性を生かし、地域と結びつけた学習への取り組みが実施された。今年度の取り組みを元に来年度校務支援システムに移行する個別の指導計画、年間計画の作成が行われるための準備を検討していく。	A	
生徒指導部	友だちや地域の方々と適切にかかわり合いながら、集団の中で協動的に行動ができる児童生徒の育成	体育祭や運動会、is youフェスタ等の学校行事を通して、友だちとかわることができるように、児童生徒の発達段階に応じた活動内容や活動方法を設定していく。	教職員アンケートの回答の「良い」「概ね良い」の割合。設問「学校行事(体育祭や運動会、is youフェスタ)において、児童生徒が友だちと積極的にかわる場面を設定できたか」	80%以上	96%	A	各学部の教員と協力しながら各行事の準備運営ができた。児童生徒同士がかわる場面を設定しながら取り組めた。次年度はより地域を意識しながら企画運営していきたい。	A	・コロナ禍での人とかかわり方は難しいとは思いますが、社会に出るためには必要なことなので、地域とのつながりをつけてほしい力だと思います。
寮務G	集団生活やそれに伴う活動を通して自分のできることを考えて、仲間や地域とつながろうとする態度を育成する。	・生徒同士が話し合ったり主体的に動いたりする話しあい活動を設定する。 ・舎生会活動(三役会・部屋会・舎生のつどい)や余暇活動(余暇日計画・活動)、地域交流活動(ひまわりプロジェクト、ゴミ拾いボランティア)	各活動へ生徒が参加した割合。	80%以上	100%	A	・寄宿舎で生活している生徒は、全員がそれぞれの活動に参加することができた。 ・今年度の取り組みや方法は有効だった。来年度からの活動にもつなげていきたい。	A	・それぞれの過ごし方や考え方が違う生活の中でも、まとも役を中心に活動が実施できたことは舎生にとって達成感や自信につながるのだと思います。
進路支援部	「地域で生きる人になる」ことを意識した取組が充実するよう、地域との良好な関係作りを促す。	・PTA研修会や教員向け研修会、外部講師による学習等、地域の現状やニーズ、地域との繋がりについて学べる機会を設定する。	地域の現状やニーズ、地域との繋がり等を学べる機会について発信した回数。	年2回以上	各学部、分教室それぞれ2回以上	A	・効率のよい情報発信が課題。ホームページを活用して、児童生徒・保護者・教員向けの情報と関係機関向けの情報を発信していきたい。 ・教員向けに卒業生の様子や地域で生きることの実際を知る機会を設け、カリキュラムマネジメントの視点をもって在学中に必要な学習を考えていけるようにしていきたい。	A	・夏休みに実施された先生との懇談会は、とても有意義なものでした。保護者と進路について意見交換できる機会が作られると良いと思います。 ・情報発信は重要なことなので、どういった課題があるのでしょうか。 ・SNSの活用はされているのでしょうか。 ・自分自身の経験ですが、早い段階から次の段階、また卒業の生徒や保護者がどう社会で過ごしているのかわかっておけばよかったですと思いました。
研修部	「育てたい力」を明確にした授業実践を行い、カリキュラムマネジメントの視点からの検討を深める。	・地域で生きる人になる児童生徒を育てるために「育てたい力」を研究グループで明確にして授業実践を行い、カリキュラムマネジメントの視点から検討する機会を1学期、2学期に1回ずつ設定する。	教職員アンケートの回答の「良い」「概ね良い」の割合。設問「授業魅力化シートを活用した授業の振り返りを通して、カリキュラムマネジメントの視点で検討を深めることができたか」	80%以上	93%	A	・魅力化シートに沿った振り返りを通して、カリキュラムマネジメントの視点から授業を検討することができた。今年度の研究の成果を研究のまとめの共有を通して、来年度につなげていく。 ・大規模な学校で一つの校内研究に取り組むために、共通した研究ツールを活用していく。	A	・「育てたい力」と児童生徒が「地域で生きるための力」が同じ考えなのでしょうか。
相談支援部	児童生徒の多様な個性を生かす支援の充実を図る。	児童生徒の多様な実態を、良さや持ち味からとらえ、地域で生活する力を育てるための具体的支援に生かせる情報提供を相談支援部通信「カラフル」等で発信していく。	月1回程度の通信を発行する。	年間10回以上	10回発行(2/7現在8回発行)2月中旬に2回発行予定	A	・定期的な発行計画を立てる。 ・情報提供の目的を明確化し、教職員のニーズを反映したものにする。	A	
図書情報部	地域と校内に、学習の様子やICT機器・図書館の活用に関する情報を積極的に発信する。	地域や校内に必要な情報発信をするために、HP更新、ICT機器活用に関する通信の発行、図書館便りの発行等を行う。	月ごとの更新・発行回数。	月あたり平均10回以上(HP更新:本校各学部月2回以上・分教室月1回以上、ICT通信・図書館だより学期1回以上)	月あたり平均19回(4/2~1/20計190回発信)	A	・次年度も更新計画を作成し、部署ごとに更新を進める。 ・稟議の簡略化(電子決裁)を進める。 ・個人情報の流出防止が徹底できるよう、記事作成時の留意ポイントを分かりやすく周知する。	A	・新しいホームページは、以前のものと比べてデザインや視認性が優れていて、より多くの人に情報を届けたいという思いが表れたサイトになっていると思います。更新回数の具体的な目標を掲げていってほしいことで、各学部の情報が継続的に発信され、読む人に「次も見よう」と思ってもらえる効果もあったことと思います。また、閲覧回数・範囲を広げる工夫について第2回協議会の際にもアイデアが出されましたが、その後発行された校報の表紙にQRコードが掲載されるなど、「見てもらえる」サイトへの努力もなされていたと思います。出雲養護学校に関わる方々が多様になっていることを受けて、やさしい日本語の使用など、よりインクルーシブな情報発信になっていくことを期待しています。
保健部	地域の食への関心が高められるように、児童生徒に応じた食に関する指導を行う。	おいしめの日や掲示物を利用して、給食における食に関する指導を各学部で行う。 小:給食に関する掲示物や絵本の活用等 高:給食に関する掲示物や調べ学習等 学習の成果物を可能な限り、学部間で交換し、互いの取組が見えるようにする。	給食における地域の食に関する指導や掲示物の周知を各学部で実施する。	各学部で3回以上実施	100% 学部毎回数 小4回 中6回 高3回	A	食に関する指導については、今後とも年間指導計画に基づき、各学部の学習の中で取り組んでいけるように教材の情報提供や各学部間の取り組みの紹介など行っていきたい。 次年度は「しまねっこ元気プラン」に基づく別の健康に関する課題を取り上げたいと考えているが、引き続き食育の取組とも連携させて取り上げていきたい。	A	
地域連携推進部	地域の人・もの・ことを活用したり、地域とビジョンを共有したりしながら地域と連携・協働した授業づくりを推進するための校内体制を整備する。	・地域の人・もの・ことやいずよう魅力化協議会での協議内容について、授業づくりやカリキュラム・マネジメントの視点をもって情報発信及びコーディネートを行う。	教職員アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合。設問「地域の人・もの・ことやいずよう魅力化協議会の協議内容の情報発信及びコーディネートの活用ができたか」	80%以上	99%	A	・地域人材についてリストを作成しているため、校内に周知活用できるようにする。 ・これまで分掌部長、地域連携コーディネーターが連携の窓口になることが多かったが、各学部の部員が担えるように、業務の進め方を整理する。	A	・県立大学への出店、今後も継続することをお願いします。 ・地域人材リストはぜひ活用してほしいです。地域の人と関わるように、できるだけ外に出かけるようにしたいです。 ・出雲養護学校のミッションや各ポリシーは、子どもたちはもちろん、私たち自身も「地域で生きる人」「生かされる人」であることに気づかせていただくのだと思います。その意味でも、地域連携推進部のお取り組みは、ミッションの達成に大きく寄与されるものだと思います。それだけに負担も大きいことと思いますが、次年度に向けて業務の進め方を整理されることと、より多くの先生方が地域との繋がりを持ってくださることを嬉しく思います。生徒さんの学びだけでなく、地域が生徒さんたちや先生方に学び、それによって地域のあらゆる分野、組織がよりインクルーシブになっていくことが、「魅力化」の大きな意義であると考えます。 ・とても大きな役割の上、多忙な業務の中で、地域とつながっていたいたこととはとても大きなことだと思っております。このつながりから、さらに幅広く児童生徒が経験できるように継続してほしいと思います。

事務部	就学奨励費支弁区分を早期に決定する。	支弁区分決定にあたっての保護者の個人番号(マイナンバー)の利用を促進することにより、事務処理の簡素化を図り、早期決定を行う。	9月末時点の支弁区分決定率。	90%以上	95%	A	個人番号(マイナンバー)の使用率がR3年度94.4%からR4年度は95.7%に増加したこともあり、早期の支弁区分決定につながった。引き続きマイナンバーの利用を働きかけ、支弁区分の決定を早期に実施したい。	A	
-----	--------------------	--	----------------	-------	-----	---	---	---	--

<p style="text-align: center;">学校関係者評価委員 (いずよう魅力化協議会委員) 総評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体が一丸となって、地域とのつながりを大切に取り組み、職員・生徒の皆さんの熱意・おもてなしの心が伝わりました。営業日に地域の方々の来訪でにぎわい、地域に根ざしたオープンな学校として情報発信や会議など大変ご苦労されたと思います。 ・積極的に教育活動に取り組みられていると思います。地域への意識も高く、今後も学校として活躍していただけると期待しています。県教育委員会、NTTドコモとの三者連携の取り組みは次年度も計画をされています。ぜひ、ご参加の方ご検討をお願いいたします。 ・コロナ禍の中ではありますが、地域への発信や地域との交流も増えつつあります。感染対策を徹底しながら、Withコロナで交流を継続して行きましょう。 ・学校方針及び施策、プランが細かく整理されており、それについての自己評価もしっかりまとめられて素晴らしいと思います。地域との関り、その重要性を捉えた取組みも魅力的で大変評価できます。 ・評価欄がすべてAになっているのは、すごいと思います。生徒さんと先生のコミュニケーション他のたまものですね。素晴らしいと思います。 ・出養では、外部と繋がっていいこうという積極的な姿勢を感じます。地域人材のリスト化や情報共有の取り組みは進められているようですが、問題はそれらをどう活用していくかだと思います。全ての先生方が、自分の担当される授業の中で、外部人材を手軽に活用できるような仕組み作りをして行ってほしいと思います。 ・めざす児童生徒像の「地域で生きる人になる」を実践するには、地域とのつながり、連携は重点課題であると思いますので、ぜひ地域の人に理解してもらいような実践活動をしてほしいと思います。地域に積極的に出かけることを心掛けるとともに、様々な媒体を使って情報発信していくことも大切なことではないでしょうか。 ・教職員研修や、高等部職業コースの授業で、生徒さん・先生方と共に学ぶ機会をいただき、出雲養護学校が掲げているものだと強く感じました。「マイノリティ」や「社会的弱者」という立場に置かれている人たちが、そうではない人たちが「包摂する」「受け入れる」ということではなく、少数か多数かに関わらず、多様な生き方に開かれている社会の実現に、出雲養護学校のそれぞれの部門の取り組みは十分過ぎるほどのインパクトを持っていると思います。児童生徒の育ち・学びと同時に、その姿から社会や大人が学び、一部の人が「イレギュラーな存在」に追いやられている現状を変えていくこと、そこに少しでも貢献することが「魅力化」の目指すところだと考えます。次年度も、「双方向」「多方向」の学びが推進され、地域・社会が「多様さ」に開かれることで、子どもたちが「地域で生きる人」になれるよう、私も自分の役割を果たしたいと思います。 ・全般的に、出来ることからはじめられているので、良いと思います。 ・学校が掲げるグランドデザインにつながった活動がたくさん見られました。 ・今まで「知らなかった」という人が「知りたい」と思ってもらえるような学校にしていけるために、いずよう魅力化協議会やいろんな人の方々の協力、案を得ながら子供たちに学びの場を作っていたきたいと思います。 ・実際の活動など具体的に見たことがない中で、自己評価の結果だけを見て評価するのは難しかった。 ・今回の資料には、後期の取組、年度の評価(まとめ)も記載してほしい。
<p style="text-align: center;">校長より</p>	<p>学校運営協議会の委員の皆様が、グランドデザインを実現するための「地域で生きる人になる」という目指す姿を教職員と共有し、学校の取組に参画していただいたことが、学校運営の大きな支えとなりました。</p> <p>学校が子ども達に生きる力をつけているか、地域での役割を果たしているか等について、今後ご意見やご提案をいただきたいと思います。そのために、学校が成果のみお伝えしていくのではなく、課題も共有し、解決策を共に考えていただくような取組も行っていきたいと感じました。</p> <p>地域の方との合同避難訓練や通学路の混雑解消の対応について等、学校安全に関するご意見を頂きました。近隣自治会様とは、災害時に駐車場や体育館を利用していただけるよう、神西コミュニティセンター様のご協力を得て今年度手続きを行いました。有事の際にはぜひ活用いただきたいと思います。今後は、ご提案にある合同の避難訓練の実施について検討してまいります。臨時下校時の通学路の混雑については、避難訓練の在り方ともあわせて検討してまいります。</p>